2024 年度
第 29 号

体育市民連帯
ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

1

大学バレーボール部の
体育特技生不正
前監督
コーチを在宅起訴

2

サッカー協会監督選任
文化体育観光部の監査確定
スポーツ倫理センターも
調査に着手

3

軍隊より劣る
最悪の人権問題が
サッカー界に
残っている

4

「暴力」にまみれた
スポーツ界
「愛のムチ」時代は
過ぎ去った！

5

偏見を
取り除いて
オリンピックを
応援しよう

이희용의
세계시민

ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号　TEL 02-2279-8999

体育市民連帯 ニュースレター 2024 年 第 29 号 2024.7.23

01 ニューシス 2024.07.16

大学バレーボール部の体育特技生不正･･･前監督、コーチを在宅起訴

合格者としてあらかじめ決めておいた学生たちに特定標識をして大学バレーボール体育特技生選抜選考に参加するようにした監督とコーチが検察に引き渡された。

京畿南部警察庁の反腐敗経済犯罪捜査隊は 16 日、先月末、業務妨害の容疑で元京畿大学バレーボール部監督の A 氏とコーチの B 氏の 2 人を在宅起訴したと明らかにした。

A 氏らは 2022 年 10 月、京畿大学バレーボール体育特技生実技選考過程で合格者としてあらかじめ選定しておいた学生 11 人に紅色テープを手首にテーピングさせた後、実技試験を受けるように案内した疑惑を受けている。

以後、学生たちはテーピングをして外部専門家など面接官 3 人が参加した実技選考を行い、合格者 7 人全員が彼らの中から選抜された。 残りの 4 人は予備合格者 1～4 番として名前を上げたと調査された。

A 氏は面接官の一部にテーピング標識について言及し、学生選抜を要請したことも分かった。

当時、情報提供などを通じてこのような事実を認知した大学側は、合格者と予備合格者全員に合格取り消し通知をした。

また、A 氏と B 氏、面接官 3 人などバレーボール部の関係者 5 人を業務妨害の疑いで警察に告発した。

ただし、警察は調査の結果、面接官 3 人の犯罪疑惑点は明らかにされなかったと判断し、不送致とした。

面接官のうち 1 人は A 氏の頼みを断っており、残りは頼まれたことがないと主張したという。

出典：https://www.newsis.com/view/NISX20240716_0002813781

02 KBS 2024.07.19

サッカー協会監督選任、文化体育観光部の監査確定･･･スポーツ倫理センターも調査に着手

サッカー代表チームの監督選任をめぐる議論について、体育主務省庁の文化体育観光部が大韓サッカー協会に対する監査を実施することを確定しました。

文化体育観光部のイ･ジョンウ体育局長は 19 日「協会に対する基礎調査を進めた結果、問題点が発見され監査に切り替えることに決めた」とし「ホン･ミョンボ代表監督選任過程とサッカー協会の財政および運営状態などを総合的に覗き見る監査になるだろう」と明らかにしました。

文化体育観光部は特に、時代錯誤的だという批判を受けているサッカー協会の代表監督選任の定款についても綿密に調査する計画です。 サッカー協会の定款にある国家代表規定第 12 条 2 項は「協会は国家代表監督に選任された者が球団に属している場合、その球団の長にこれを通知し、所属球団の長は特別な理由がない限りこれに応じなければならない」と明示されています。

文化体育観光部は約1週間、基礎調査に入った後、サッカー協会を訪問したり、関係者を呼んで調査する公式監査に着手する計画です。 通常、監査期間は約2～3週間程度かかると言われています。
一方、体育界の人権保護や不正調査を担当している機構のスポーツ倫理センターはサッカー協会に公文を送り、監督選任の過程についての調査に入ると通知しました。 倫理センターは調査の結果、誤りが発見されれば文化体育観光部に該当事案に対する懲戒を要請することができます。
出典：https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=8016280&ref=A

03　京郷新聞　2024.07.21
軍隊より劣る最悪の人権問題がサッカー界に残っている

Kリーグ2金浦FCのユースサッカー団所属選手だったA君（当時16歳）が、2022年4月27日未明、宿舎で遺体で発見される前にカカオトークに残したメッセージだ。 A君は小学校4年生の時からサッカーを専門的に習い始めた。 しかし、サッカー選手という夢に向けた彼の挑戦は7年で消えた。 A君はカカオトークメッセージにコーチたちの名前を羅列した後「率直に言って今日終わって明日が怖い」、「00の差別と00の暴力、言語暴力」等の言葉を使った。
A君の死後、幼少年選手を対象にした指導者の暴力を根絶しなければならないという声が出た。 しかし最近、ソン･フンミン選手の父親ソン･ウンジョン氏が運営する「SONサッカーアカデミー」で児童虐待があったという論難に関連しては、特にソン氏側をかばう世論が形成された。 ソン氏は釈明文を通じて「愛が前提とされない言動は決してなかった」と主張した。 オンライン上では「サッカー選手になるためには強いメンタル（精神力）が必要だ」、「良い言葉だけでまともに教育できるか」という話が出た。
今年7月12日、記者と会ったA君の父親Bさん（50）は「未成年者に言語暴力をするのがスポーツなのか、このようなスポーツがどこにあるのか」と反問した。 専門家らは「韓国のスポーツがまだ時代遅れの談論にとどまっている」と話した。

幼少年選手死亡2年2ヵ月、捜査は進行中

スポーツ暴力問題は2018年ショートトラック国家代表シム･ソクヒ選手がコーチから暴行を受けた事実が知らされ、翌年シム選手が性暴行被害を告発して大きくふくらんだ。 2020年、トライアスロン（鉄人三種競技）国家代表出身のチェ･スクヒョン選手が監督などの過酷行為に耐え切れず、自殺する事件まで発生した。 政府は急いでスポーツ倫理センターを設立した。 このスポーツ倫理センターが金浦FCの件を調査した。 スポーツ倫理センターはコーチが普段幼少年選手たちに「頭に銃を撃たれたのか」、「XXこれは違う」等の悪口を言ったと確認した。 選手たちが規則を破った場合、髪を切らせ、運動能力が足りないという理由で水筒を投げるなどの暴力があったと見た。
具体的に法的責任を問う手続きは依然として進行中だ。 A君が死亡して2年2ヵ月が過ぎたが、警察はまだ児童虐待容疑の捜査を終えていない。 A君の父親がコーチたちと球団を相手に起こした損害賠償請求訴訟は、捜査結果を待つという理由で中止された。 捜査･裁判では暴力があったのかから暴力のためにA君が死亡したのかまで原点から再攻防が行われる。

コーチたちは、幼少年選手たちと議論して規則、罰則を決め、A君が規則を破って注意をしただけで、暴力はなかったと主張したという。 規則と罰則は、携帯電話のWiFi使用が摘発されれば髪を切ることと退出、生活規則を破れば競技と訓練不可、食事時間を破れば携帯電話押収などだった。 スポーツ倫理センターは、「幼少年選手たちがこのようなルールと罰則に同意したとしても、その内容が人権侵害的だ」とし、「A君が罰則遂行とサッカー選手から退出される恐れがあるという恐怖感を感じた可能性がある」と判断した。 最終的に捜査機関と裁判所がどのような判断を下すかは分からない。
B氏は「子供たちの試合出場と進路に対する権限を持つ指導者が悪口を言ったり強圧的な態度を見せるのは子供たちの人生目標を人質にする児童虐待」とし、「軍隊より劣る最悪の人権問題がサッカー界に残っている」と話した。 スポーツ暴力は、訓練に参加するかどうかから、どのような方式で参加するか、試合に出場するかなどを決める指導者と、その指導者の言葉を受け入れなければならない未成年者選手の権力関係の中で現われるという趣旨だ。 そのような意味でB氏はSONサッカーアカデミーを擁護する世論に対して「本質から外れる」と話した。
B氏の話だ。 【子供たちにとってサッカー選手は夢であり、ロマンです。 幼い年で夢を持つことだけでも大変なことですが、子供が訓練に参加して試合をプレーできる権限は指導者が持っています。 チームを簡単に変えられるわけでもありません。 指導者に服従するしかありません。 「あなた、ゲーム出てきて」、「あなた、守備して」、「あなた、早く走らないと」、「なんであそこにパスしてあげないの」 コーチが、こうやって行けって言ったのに行かずにミスしたら悪口が出るんです。 みんな集まっているところで悪口を言ったら他の子供たちにはどう見えますか？ 誰がこの子のところに行って「大丈夫？」と言うでしょうか？ 「私はそうはならない」ということで、私はそれがガスライティング（訳注：心理的虐待）だと思います。 競争のせいでですね。 親たちは自分の子供が出れないのを見ると腹が立つので、コーチ·監督によく見せようとするのです。 最近の子供たちが弱い、サッカーは悪口を聞きながら強圧的に学ばなければならないと言っていますが、このようにサッカーを教える国は全世界で韓国しかないでしょう。】

大韓サッカー協会は昨年12月19日になってようやく「倫理規定」と「サッカー人人権保護規定」を作った。 倫理規定第15条第1項は「他人の人格と尊厳を尊重し保護しなければならない」と明示する。 第3項は「すべての形態の身体的·精神的虐待、いじめまたは他の者の尊厳を孤立させたり傷つけるための敵対的行為をしてはならない」とされている。 ただ、SONサッカーアカデミーのように学校の外で行われた教育は、管理監督の死角地帯にあるという指摘も出ている。

スポーツ界の古い認識、海兵隊訓練も

専門家たちは「強い訓練だけがメダルを作る」という古い認識が根本的に問題だと指摘した。 スポーツに対する科学的アプローチよりは閉鎖的な雰囲気の中で強力な訓練をし、そのように作られた選手の強い精神力が成果を作るという教育方式がスポーツ暴力を清算できない原因だということだ。 一例として昨年末、大韓体育会は2024年パリ五輪に備えて精神力を強化するという名目で国家代表選手たちに海兵隊訓練を受けさせ論難がおきた。
聖公会大学文化大学院の鄭ユンス教授（スポーツ評論家）は、「強靭な体力、固い心を中心にしたスポーツ談論は1990年代以降は捨てられた談論」とし、「（米国などでは）合理的·科学的·体系的に成長過程と心理

を分析し、スポーツ教育につなげるシステムがすでに30年になったが、韓国は30年前の状況にある」と話した。
鄭教授は、「文化体育観光部、大韓体育会、大韓サッカー協会などの後の祭り式対応も問題だ」と批判した。 鄭教授は「ある悪い指導者一人が悪いからではなく、暴力が構造化されている状況でスポーツ政策に対する権限と責任がある機関が恐ろしい事件が起きた時になってようやく対策を作った」とし「科学的システムの適用、閉鎖された生態系の拡張、事件事故と関連した指導者はスポーツ界に足を踏み入れることができないように厳罰に処するなどの政策をまともに展開していたら、このような事件(SONサッカーアカデミーの児童虐待論難)は出てこなかっただろうし、出てきたとしても(世論が)『まだ子供を殴打していたのか』という反応だったはずなのに、今は入り乱れている。」
中央大学体育大学のホ·ジョンフン教授（体育市民連帯共同代表）は「目標を設定し、競争の中で選手が自信を高め、不安を調節する科学的な方法があるにもかかわらず、指導者が苛酷な悪口を言って殴ってこそ選手が鍛えられるという前近代的で後進的な思考が依然として残っている」と話した。 ホ教授は「一部の国では子供たちに健康で幸せに運動できる権利を保障し、その子供たちを指導する大人たちの義務を規定したスポーツ権利章典もある」とし「第2、第3の金浦FC事件が現れないためには一部コーチの資格剥奪や処罰問題に縮小しないで大韓体育会と大韓サッカー協会レベルでどんな対策を用意したのかをきちんと調べなければならない」と話した。
出典：https://www.khan.co.kr/national/national-general/article/202407210900051

04　スポーツ韓国　2024.07.18
「暴力」にまみれたスポーツ界、「愛のムチ」時代は過ぎ去った！

サッカーや野球、バレーボールなど、種目を問わずスポーツ系列が暴力に染まって苦しんでいる。
先月26日、ソン·フンミンの父親ソン·ウンジョン監督が運営する幼少年サッカー訓練機関「SONサッカーアカデミー」でソン監督とコーチ陣が児童たちにプラスチックコーナーフラッグで太ももを殴って傷を負わせるなど暴力と暴言があったという証言が出てきて、このような疑惑で送致され検察調査を受けているという事実が知らされ世間のイシューに浮上した。
ソン監督らは釈明文を通じて「コーチと選手の間で先着順で走るのに遅れれば一発殴られることに合意した」とし「子供たちに対する愛が前提にならない言動は決してなかった」と釈明した。
しかし、このような釈明にもかかわらず、6日に公開された日本福岡で行われたSONサッカーアカデミーの試合映像には、所属選手が不振だと「おいXX」「おい、おまえはボンXX？」 「頭数を満たすために入ったのか?」「やりたくなければ出ていけXX」「おい、このXX、へなへなするなら出ていけ」と大声で悪口を吐き出すコーチ陣の言動が含まれている。
これに対しSONサッカーアカデミー側は「正式大会初参加で選手たちが過度に緊張し、監督とコーチ陣が毎日強調した事項が実戦で全くなされずもどかしさが大きい状況だった」として「過激な表現は競技場の外で選手たちを指導する過程で出てくるものであり、緊迫した状況に速かに指示事項を伝達したために表現が精製されなかった。 決して特定児童を指して情緒的に虐待する意図はなかった」と説明した。

試合に参加した選手たちがソン·ウンジョン監督とコーチ陣の意図とは異なり、試合を展開しながら苦しい状況を演出したとしても、このような言動が「子供たちに対する愛が前提」になったことが正しいのか疑問を抱かせる。
過去に比べて国内スポーツ人権認識水準が大きく高まったが、スポーツ分野で指導者による人権侵害と暴力問題は絶えず提起されている。 2020年、鉄人3種競技選手だったチェ·スクヒョン選手が監督とチームドクターの暴言と暴行に極端な選択をしたりもした。
これを契機に文化体育観光部傘下のスポーツ倫理センターが開所したが、「エリート体育」という名目の下でプロスポーツ以外の学校外アカデミーでも依然として若い選手たちに対する人権侵害と暴力が起きている。
甚だしくは幼少年サッカー訓練機関の一部是認と証拠映像にもかかわらず、保護者たちは釈明文を出し「今まで一度も体罰というものはなかった」として捜査·司法機関に被疑者に対する善処を要請した。
しかし、いかなる理由であれ、スポーツにおける人権侵害や暴力行為は許されない。 また、現状況で「愛のムチ」は誤ったことを正すのではなく、自身の暴力を正当化するための弁解であることを指導者と保護者たち自ら認知しなければならない時だ。
彼らが育った時とは環境や認識が大きく変わっただけに、今は訓育の方法も現状況に合わせて変化するのが当然ではないか？
出典 :https://www.dailysportshankook.co.kr/news/articleView.html?idxno=330604

05　イーデイリー　2024.07.22
偏見を取り除いてオリンピックを応援しよう

1896年4月6日、ギリシャのアテネで第1回オリンピックが開幕した。 古代五輪が中断されてから1503年ぶりのことだった。 古代ギリシャ五輪を再現し、世界平和に貢献するというクーベルタン男爵の夢が実現した瞬間だった。
しかし、「人類平和の祭典」という名にふさわしくなく、近代オリンピックは半分の半分の大会でスタートした。 女性は出場できなかった上、241人の選手は白人一色だった。 14ヵ国の参加国のうち、非欧州諸国は米国とチリだけだった。
4年後、パリ大会で女性の出場が認められ、英国植民地のインドが初めて参加した。 英国とインドの混血選手であるノーマン·プリチャードは、陸上200メートルと200メートルのハードルで銀メダル2個を獲得し、最初の有色人種入賞者として記録された。
1904年のセントルイス大会では、陸上200メートルと400メートルハードルに出場した米国のジョージ·ポージーが、黒人としては初めて銅メダルを獲得した。 米国体育会は、北アメリカのスー族、アルゼンチンのパタゴニア族、アフリカのピグミー族、フィリピンのモロス族、日本のアイヌ族に棒登りや泥仕合などの試合をさせ、観衆の見物に転落させた。
1908年ロンドン大会では南アフリカ共和国が初めて出場し、金メダルを獲得した。 日本は1912年ストックホルム大会から参加し、1920年アントワープ大会で初めて入賞した。

ドイツのヒトラー総統は、1936年ベルリン大会をアリアン民族の優秀性を誇示する舞台にしようとした。ユダヤ人の出場を阻止しようとして、各国の反発を買ったこともある。
ヒトラーの期待どおり、ドイツはメダル順位で米国を抜いて初めて1位に上がった。 しかし「五輪の花」マラソンで日の丸をつけて出場した植民地青年の孫基禎（ソン·ギジョン）と南昇龍（ナム·スンリョン）が金メダルと銅メダルを獲得し、米国の黒人選手ジェシー·オーエンスが陸上4冠王（100メートル·200メートル·400メートルリレー·走り幅跳び）神話を成し遂げ、気を吐いた。 ヒトラーは黒人メダリストと握手しないために競技場を早く離れたという疑惑を持たされたりもした。
白黒差別はその後も五輪を熱く盛り上げた争点だった。 アパルトヘイト（白黒分離の人種差別政策）を展開していた南アフリカ共和国は、1964年の東京大会から1988年のソウル大会まで参加を禁止された。
メキシコ大会が開かれた1968年は、黒人指導者マーティン·ルーサー·キングが殺害された年だった。 陸上200メートルで金メダルと銅メダルを獲得した米国の黒人選手トミー·スミスとジョン·カルロスは、米国の国歌が鳴り響く時、表彰台で黒い手袋をはめた片手を持ち上げて沈黙デモを行った。
国際オリンピック委員会（IOC）は、五輪精神に違反したとして直ちに選手村から追い出し、米国陸上連盟も彼らを除名した。 豪州の白人銀メダリストのピーター·ノーマンも、人権運動を象徴するバッジを一緒に胸につけて共感を示したという理由で、国家代表の資格を剥奪された。
一部のイスラム国家では、女性選手に対する差別が続いている。 2000年シドニー大会は、タリバン政権の女性抑圧政策を問題視し、アフガニスタンの参加を禁止した。 同大会で豪州原住民（アボリジン）のキャッシュ·フリーマンは、女子陸上400メートルで優勝した後、アボリジンの旗を持って競技場を回りながら原住民差別に抗議するパフォーマンスを行った。
今やオリンピックでは以前のような人種·民族·女性差別は多く減ったが、まだ未解決課題が山積している。 五輪を国力誇示の場と考えたり、メダル順位を民族の優秀性と関連付ける態度も依然として残っている。 「勝利より参加することに意義がある」というオリンピック精神と「スポーツで人類平和を実現する」というクベルタンの理想は遠い。
4日後に開幕するパリ五輪の大韓民国代表団には帰化選手と多文化家庭選手も含まれている。 中国から帰化したチョン·ジヒとイ·ウンヘ（以上女子卓球）、韓国人の父親と日本人の母親の間に生まれた在日韓国人のホ·ミミ（女子柔道）、卓球スターのアン·ジェヒョン、ジャオズミン夫妻の息子アン·ビョンフン（ゴルフ）だ。 彼らも堂々とした大韓民国の一員であり、誇らしい太極戦士だ。
国家対抗戦の性格を帯びるスポーツ大会で、自国選手を応援するのは自然な現象だが、過度な民族主義や国家主義は困る。 葛藤と嫌悪を呼ぶからだ。 偏見を取り払い、落ち着いた気持ちで五輪代表選手たちの善戦を祈り、素晴らしいプレーに拍手を送ろう。
出典：https://www.edaily.co.kr/News/Read?newsId=01213606638957144&mediaCodeNo=257&OutLnkChk=Y

06　週間スポーツニュース

斗山建設、天安市体育発展のための寄付金2000万ウォン伝達
https://www.news1.kr/realestate/general/5486835

障害者と非障害者が一緒に･･･済州オウリム生活体育大会「盛況」
https://www.nocutnews.co.kr/news/6181524?utm_source=naver&utm_medium=article&utm_campaign=20240721041204

富川市体育会長、「女チーム長職員セクハラ」謝罪･･･「分離措置」
https://www.newsis.com/view/NISX20240717_0002814440

仁川市教育庁、学校体育教育のパラダイムを変える
https://www.newsis.com/view/NISX20240718_0002817252

国民体育振興公団、児童養育施設にスポーツ用品を寄付
https://www.yna.co.kr/view/AKR20240718137200007?input=1195m

大田中区障害者体育会設立本格･･･ 年内発足の目標
https://www.joongdo.co.kr/web/view.php?key=20240721010006495

全北体育会、体育英才 50 人選抜･･･選手登録時の訓練費などの支援
https://www.yna.co.kr/view/AKR20240718108700055?input=1195m

銅雀区、多子家庭に体育施設の駐車料を 50%減免
https://www.newsis.com/view/NISX20240718_0002815911

「ボンジュール、パリ！」･･･大韓民国選手団本団、決戦地入り
https://www.yna.co.kr/view/AKR20240720047751007?input=1195m

体育市民連帯オンライン　定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。
国民銀行　086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯　ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net　ホームページ：　http://www.sportscm.org/

日本語訳：佐藤好行　新日本スポーツ連盟　国際活動局　韓国担当　jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室）　http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html